

エコアクション 21

環境経営レポート

2023 年8月～2024 年7月



山川産業有限公司

承認者	承認日	承認印
経営者	2024 年 9 月 10 日	
環境管理責任者	2024 年 9 月 10 日	

環境経営方針

基本理念

私たちは、常に奉仕の精神をもって作業を行い、親切丁寧を旨にお客様に接し、絶大な信頼のもと「**地域に無くてはならない事業所**」になります。

そのため、地球環境の保全が人類共通の最重要課題であることを強く再認識し、「**地域に無くてはならない事業所**」になるための最優先事項として、企業活動のあらゆる面で地球環境の健全性の保全に配慮して行動します。

基本方針

当社は、一般廃棄物収集運搬業及び浄化槽保守点検業・清掃業等の業務を行うに当たり、地球規模の環境及び地域の環境に関わりが強いことを強く認識し、自然環境と調和した循環型社会の実現の為、以下に掲げる環境活動を推進します。

1 資源・エネルギー及び廃棄物の抑制

資源とエネルギーの消費、廃棄物の排出状況などを把握して、省資源、省エネルギー、廃棄物の抑制等の環境に与える負荷の低減を継続的に実施して行く環境保全活動に、自主的、積極的に取り組むことにより、社会に貢献します。

特に、浄化槽の清掃においては、全件汚泥濃縮車による清掃を目指し、お客様の水使用量の軽減に努めていきます。

2 環境マネジメントシステムの確立

省資源、省エネルギー、廃棄物の抑制等を行う為、環境マネジメントシステムを確立し、見直しを行って、その継続的な改善及び環境汚染の予防を行い維持します。

3 環境関連諸法規の遵守

関連する環境の法規、条例及びその他の規制事項を遵守します。

4 地域社会への貢献

地域社会の一員として地域・社会貢献活動の推進に努めます。

5 環境コミュニケーションの推進

環境経営レポートを当社に備え付け、地域や関係する利害関係者の人々からの要求に応じ配布・公表し、社内外への情報提供を行うことによって、積極的な環境コミュニケーションに取り組みます。

2006年 2月1日 制定

2023年11月1日 改正

山川産業有限公司

代表取締役 山川 正人



■はじめに

当社は、一般廃棄物収集運搬業及び浄化槽保守点検業・清掃業等の業務を通じて、全員一丸となり、地域のお客様の浄化槽よりきれいな処理水を放流することで、水環境及び水資源を守ることを使命と考え、社員一人一人がレベルアップすべく活動しており、地域の環境保全に、より一層貢献して参ります。

なお、本レポートは、2023年8月から2024年7月の1年間の活動状況を取りまとめたものです。

■事業概要

社 名：山川産業有限会社

代 表 者：代表取締役 山川 正人

創 業：昭和28年8月1日

資 本 金：300万円

従業員数：7名

所 在 地：福島県福島市飯坂町中野字高取1番地の1

環境保全関係の責任者及び担当連絡先：環境管理責任者 蓬田 孝一

連絡先 電話 024-542-4794 F A X 024-542-0451

事業内容：一般廃棄物収集運搬業(し尿)及び浄化槽清掃業

浄化槽保守点検業

許可内容：■一般廃棄物収集運搬業(し尿)及び浄化槽清掃業

1) 許可番号：伊達地方衛生処理組合 第1号

2) 許可年月日：令和6年4月1日

3) 許可有効期間：令和6年4月1日～令和8年3月31日

■浄化槽保守点検業

1) 許可番号：福島県知事登録 第1053号

2) 許可年月日：令和3年11月11日

3) 許可有効期間：令和3年12月11日～令和6年12月10日

■浄化槽保守点検業

1) 許可番号：福島市長登録 第5号

2) 許可年月日：令和3年10月20日

3) 許可有効期間：令和3年12月11日～令和6年12月10日

認証範囲：全組織・全活動

施設状況：バキューム車5台 汚泥濃縮車4台

処理実績：収集運搬量 5,437 m³ (2023年8月～2024年7月)

料金関係：一般汲取料金・・・人頭制 1人 400円(税別)

従量制 18L 150円(税別)

■2023 年度 環境経営目標

代表者の見直しの結果、2023 年度の環境目標の基準年度と目標値を次のように設定しました。

■二酸化炭素排出量**2019 年比 4%削減**

二酸化炭素排出量は、気候による影響で左右されますが、LED 照明や省エネタイプのエアコンに交換したことや、燃費の良い車両の導入により削減傾向になっているので、2019 年度比 4%削減目標と設定しました。

室温管理や節電、エコ運転等には十分心掛けたいと思います。

■一般廃棄物排出量**2022 年度比監視項目**

一般廃棄物排出量は、保管年数を経過した書類等の廃棄量等が年間の増減率に影響するため、ゴミの分別の徹底、使用済の紙類の資源化、金属類の有価物化には十分努めることとし、2022 年度比監視項目と設定しました。

■総排水量**2022 年度比監視項目**

総排水量は、冬季の水道管凍結防止の措置や貯水槽及び社内の清掃時などの使用はあるが、十分節水を中心掛けているものの、気候の影響により増減するので 2022 年度監視項目と設定しました。

■地域・社会貢献活動**年 4 回以上実施**

地域社会貢献活動は、昨年と同様ふくしまきれいにし隊「4 回以上/年」の実施、「ふくしまゼロカーボン宣言」事業への参加を目標とします。また、社内においても週末の終礼時の環境方針の唱和や、一般教育研修等では、全社員が家庭での節電、節水、ゴミ分別等の実施の指導をしていきたいと思っています。

■汚泥濃縮車による浄化槽清掃の推進**実施件数率 96%以上**

浄化槽の取壊しや下水道への切り替えの件数は多くあるものの、実施件数率 96%以上を目標とし、お客様の水使用量の軽減に貢献したいと思います。

■化学物質の削減**凝集剤等の使用量の管理**

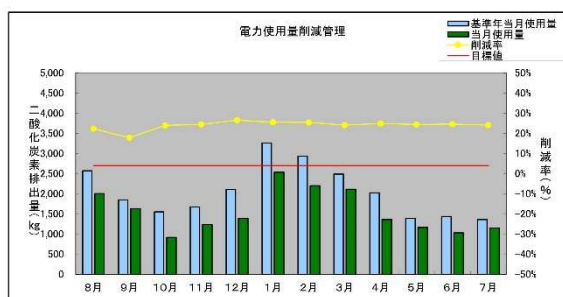
凝集剤等の入荷数と在庫数を管理することにより、使用量が分かり、浄化槽清掃の増減の把握につながるかと思います。また、適正な保管場所の管理も実施します。

■2023 年度実績と評価

■二酸化炭素排出量…基準年度（2019 年度）の 4%削減目標値としましたが、25%削減となりました。

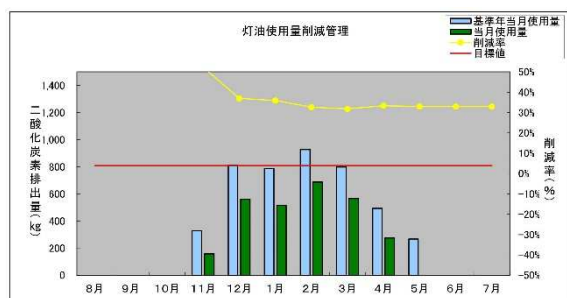
取組項目		排出 係数	単位 発熱 量	基準年度		削減計画及び実績値				
				2019.8～2020.7		2023.8～2024.7				
						目標 (4%削減)		実績		
				使用量	二酸化炭 素排出量 (kg)	使用量	二酸化炭 素排出量 (kg)	使用量	二酸化炭 素排出量 (kg)	
購入電力		0.46		43,835	24,591	42,149	23,645	43,041	18,680	24% 減
化石燃料	灯油	0.0679	36.7	1,770	4,411	1,701	4,241	1,108	2,761	33% 減
	液化石油 ガス (LPG)	0.0598	50.2	256	769	246	739	207	621	19% 減
	ガソリン	0.0671	34.6	4,716	10,949	4,534	10,527	4,061	9,428	14% 減
	軽油	0.0687	38.2	45,714	119,969	43,955	115,354	34,182	89,705	25% 減
二酸化炭素排出量合計				160,689		154,506		102,516		25% 減

※当社は東北電力株式会社より電力購入をしておりますので、購入電力の排出係数は、東北電力株式会社の排出係数を使用しなければならないところですが、福島県で実施しております地球温暖化防止のための「ふくしまゼロカーボン宣言」事業にも参加していることから、報告資料の作成等において混乱を防ぐためにも「ふくしまゼロカーボン宣言」事業に採用されている代替値の 0.434 にて購入電力における二酸化炭素排出量を算出しております。



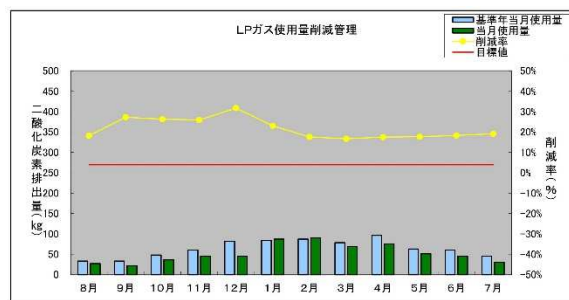
<電力使用量 24%削減>

天候により冷暖房機器の使用頻度に影響しますが、冬季は暖冬傾向で、暖房機器の使用は少なかったものの、夏季は猛暑が続きエアコンの使用が多かったかと思われますが、省エネタイプの為削減につながったかと思われます。また、LED 照明の導入もその要因かと思われます。



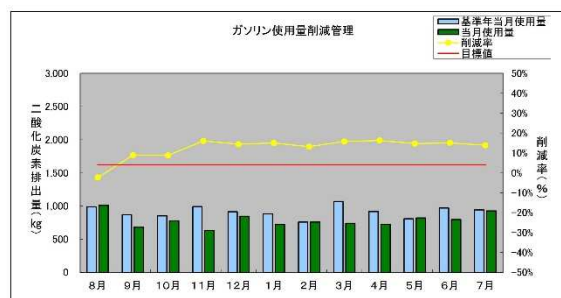
<灯油使用量 33%削減>

暖冬の為か暖房機器の使用が少なかったことや、石油ストーブの出力をあまり上げずに室温（27℃以下）を保つことができ、灯油使用量が抑えられ削減につながったかと思われます。



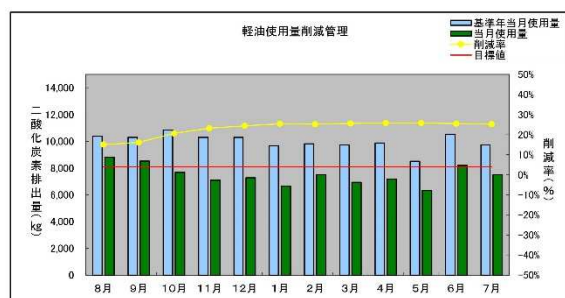
＜LPG使用量 19%削減＞

冬季にバキューム車のレバー等の凍結の解凍の為に湯沸器の使用がほとんどなかったことが主な要因となり、削減になったかと思われます。



＜ガソリン使用量 14%削減＞

遠方への出張等はあったものの、燃費の良い車両を導入したことや、エコ運転の実施、車両管理などにも配慮した為、削減になったかと思われます。



＜軽油使用量 25%削減＞

燃費の良い車両の導入、社員の減少、バキューム車や濃縮車の廃車などの影響により、削減になっているかと思われます。また、エコ運転を心掛けそれに対する安全運転等の研修会も行い、意識を高めたことも削減の要因となっているかと思われます。

しかし、4月～7月に社員が2名増えたので、車両の稼働は増えていくものと思われます。

【年 間 平 均 燃 費】

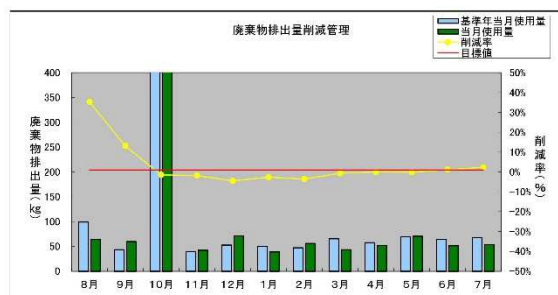
	基準年 2019 年度	今年度 2023 年度	増 減
濃 縮 車	2.04 km/ℓ	1.94 km/ℓ	0.1 km/ℓ マイナス
バキューム車	3.46 km/ℓ	3.75 km/ℓ	0.29 km/ℓ プラス

年間平均燃費は、基準年より濃縮車は悪く、バキューム車は良くなっていました。
共に燃費向上になるよう、エコ運転や効率の良い作業ができるよう心掛けたいと思います。

■一般廃棄物排出量・・・2022 年度比監視項目としましたが、前年度比 2%削減となりました。

取組項目		前年度 2022.8～2023.7	実 績 値	
			2023.8～2024.7	
			実績	
可燃ごみ	(kg)	783.4	760.3	
不燃ごみ	(kg)	22.5	15.4	
資源物	(kg)	269.8	274.7	※
廃棄物排出量合計	(kg)	1,075.7	1,050.4	2%減

※資源物のリサイクル率 26.2%
(前年度～25.1%)



＜廃棄物排出量 2%削減＞

保管年数経過書類等の廃棄が多かった為か、3月頃までは増加傾向でしたが、分別の徹底、コピー数量の削減及び OA 紙の資源化には日々努めていたこともあり、削減につながったかと思われます。

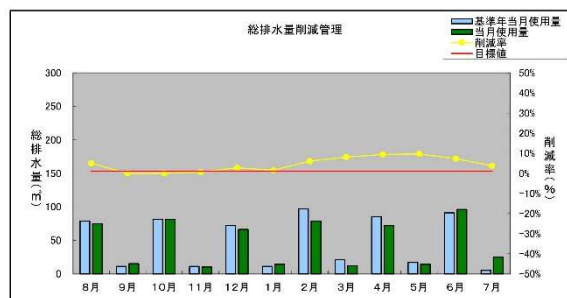
資源物のリサイクル率は、昨年を上回り 26.2%となっています。

また、産業廃棄物の管理票報告書は 6 月に福島市へ提出しております。

■総排水量・・・2022 年度比監視項目としましたが、前年度比 4%削減となりました。

取組項目		基準年度 2022.8～2023.7	削減計画及び実績値	
			2023.8～2024.7	
			実績	
上水	(m ³)	414	378	
地下水	(m ³)	167	181	
総排水量合計	(m ³)	581	559	4%減

※総排水量は計測不能のため、水使用量を総排水量としました。



＜総排水量 4%削減＞

暖冬の影響により、水道管凍結防止対策は必要なかったことや、6月の貯水槽清掃では使用量は増加していましたが、十分に節水には心掛けていたこともあり、削減になったかと思われます。

■地域社会貢献活動

地域・社会貢献活動については、「ふくしまきれいにし隊」への年4回(9月、12月、3月、6月)の実施計画は予定通り行われ、沿道のゴミ拾い、草刈りなどを協力して行いました。

社内においては、一般教育研修及び月次報告会等により、会社内ではもちろん、家庭での節電・節水・ゴミの分別の実施を指導しました。また令和6年6月～令和7年3月までの9ヶ月間、福島県実施の『地球温暖化防止のための「ふくしまゼロカーボン宣言」事業』に参加し、地球温暖化対策の取組を継続しております。

■汚泥濃縮車による浄化槽清掃の推進

汚泥濃縮車による浄化槽清掃の推進については、昨年と同様に実施件数率96%以上を目標としました。

しかし、下水道への切替や浄化槽の取壊しや修理の為の清掃が多いことに加え、人員不足により濃縮車での実施件数が進んでいないため、実施率が低くなって年間平均の実施件数率は約94%となりました。

汚泥濃縮車は、浄化槽の汚泥と水を分離する仕組みで、その水は浄化槽の張り水として再利用され、お客様の水道をほとんど使用しない為、水資源の削減には大いに貢献しているので、1件でも多く汚泥濃縮車での浄化槽清掃を目指したいと思っております。

■化学物質の削減

使用量を把握する為、凝集剤等の入荷数と在庫数を毎月管理しています。その使用量により、汚泥濃縮車による浄化槽清掃の増減も把握することができると考えます。

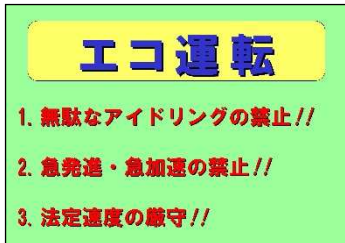
また、保管場所の施錠管理もしっかり実施されております。

■環境活動計画の取組結果と評価

2023年8月から2024年7月に掲げた目標に対しての具体的な取組としては、以下に示すような活動を実施して参りました。

■二酸化炭素排出量の削減

取 組 内 容	成果及び評価
電力使用量の削減 不要照明の消灯	「エリア照明のシール」を全スイッチに貼る事により、社員全員が意識して消灯するようにした。
照明器具の改善	令和2年9月にLED照明に交換した。 手元や室内が明るくなったことに加え、削減にも影響した。
OA機器・家電製品の待機電力の削減	長期使用しないものや退社時には、電源をコンセントから抜いておくように徹底した。
冷暖房の温度管理 (冷房時 27℃、暖房時 21℃) 室内温度厳守!! 暖房使用時 室温21℃以下 冷房使用時 室温27℃以上	各冷暖房機器に「啓蒙シール」を貼り徹底した結果、猛暑日は冷房機器の使用は多かったが、室内温度を厳守し、令和1年6月と令和4年3月に省エネタイプのエアコンへの交換が影響してか、削減傾向になった。
冷暖房機器の清掃	エアコンのエアフィルタ等の清掃を(3月～6月を除き)毎月1回実施した。また、室外機と室内機の簡易点検を3ヶ月ごとに1回(10月1月4月7月)実施した。
給水管の電熱ヒーター線の電源確認	担当者が電源の確認をした。(12月～3月)

エコ運転の実施	エコ運転の教育研修	5月17日に教育研修にて、違反行為、迷惑運転、事故などのドライブレコーダーの映像を集めた You Tube 動画を鑑賞したが、いつでも起こりうる事態と受け止め日頃の運転を見直し、更に安全運転の意識を各自高めた。 また、福島北地区安全運転管理者協会が主催する、7月～9月の期間で行われる交通事故防止コンクールに参加し、優良事業所として2月に認定証が交付された。	
	アイドリング時間の削減	全社有車の運転席の見える場所に「エコ運転」シールを貼り、運転前に確認することでエコ運転を促した。	
	急発進、急加速はしない		
	経済速度の遵守		
	月末最終日のタイヤ空気圧の確認	毎月、末日にガソリンスタンドにて確認を実施した。 また、車両備品点検のチェックも各自実施し備品の有無を確認している。	

■廃棄物排出量の削減

取組内容		成果及び評価
廃棄物分別の徹底	分別の徹底	「廃棄物の分別区分表」は全社員に配布して、それに従い分別の徹底を語った。 特にアルミ缶とスチール缶、ペットボトルは洗浄し、その分別を各自徹底し、しっかり行った。
		

	廃棄物置場の整理	廃棄物の種類毎に検量を行い、置き場の整理整頓をしている。  産業廃棄物は、きちんと保管場所に置き廃棄している。マニフェストの報告書は福島市へ6月に提出した。 
	金属類の有価物化	金属類を有価物として収集し、資源化に努め、削減意識を高めた。 
紙使用の削減	コピー数量の削減	両面使用の徹底と必要枚数のみのコピーの徹底を踏っている。また、プリンタからの印刷についても両面印刷の実施やメール等を利用しコピー用紙の使用量削減も実施している。
紙使用の削減	OA紙の資源化	使用済OA紙を資源ゴミとして整理するBOXを設置し、できる限り資源化に努め、リサイクル率の向上を目指し削減の意識を高めている。その為、一般廃棄物の年間平均リサイクル率は去年は25.1%だったが、今年は25.2%と高くなっている。 

■総排水量の削減

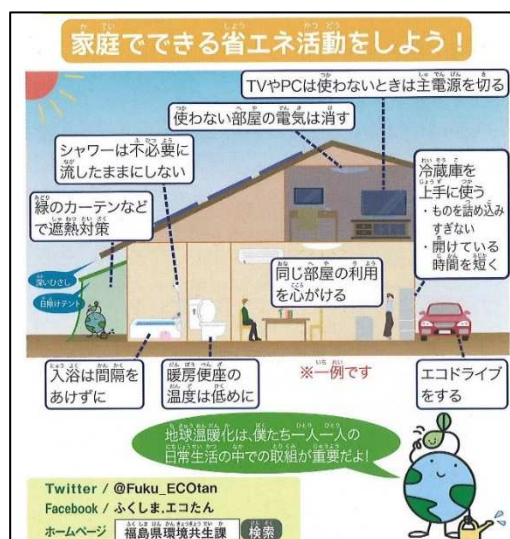
取 組 内 容	成果及び評価
洗車時の節水	「節水啓蒙シール」を全蛇口付近へ貼り注意を促している。 洗車時は水流を調節し、バケツに水を溜めて行っている。 水を大切に!! 1. 蛇口を絞り、水を細く出す!! 2. こまめに水を止める!! 3. 水はしっかり止める!! (蛇口の閉めすぎに注意!!)
水の強さを調節	
こまめに水を止める	
	年2回(6月12月)の全館清掃や毎週木曜日の社内清掃時にも、節水に努めている。  

■地域社会貢献活動

取 組 内 容	成果及び評価
地域清掃活動への参加	「ふくしまきれいにし隊」は、9月12月3月6月の年4回、予定通り実施した。 猛暑や雨天の時も、各自協力し合い、ゴミ拾いや草刈りを手際よく行った。  

全社員が家庭で、節電・節水・ゴミ分別を実施する

一般教育研修及び月次報告会にて、福島県で推奨している「地球温暖化防止のための省エネ活動」を各家庭でも取組を心掛け、削減になるよう啓蒙活動を実施した。



■汚泥濃縮車による浄化槽清掃の推進

取 組 内 容	成果及び評価
汚泥濃縮車による浄化槽清掃の推進	浄化槽から下水道への切り替えや取壊し、修理などが多い月や人員不足により、濃縮車で実施する件数が少なくなり、実施件数率は低かったが、全件汚泥濃縮車による清掃を目指し、お客様の水使用量の軽減に努め、水資源の削減に貢献するよう目指した。 

■ 2024年度以降の目標

●環境目標

環境経営目標	2024年度目標 (2024年8月1日～2025年7月31日)	2025年度目標 (2025年8月1日～2026年7月31日)	2026年度目標 (2026年8月1日～2027年7月31日)
二酸化炭素排出量の削減	2019年比 4%削減	2019年比 5%削減	2019年比 6%削減
一般廃棄物排出量の削減	2023年基準 監視項目	2024年基準 監視項目	2025年基準 監視項目
水使用量の削減	2023年基準 監視項目	2024年基準 監視項目	2025年基準 監視項目
地域・社会貢献活動	4回以上/年	4回以上/年	4回以上/年
化学物質の削減	業務上必要化学物質の為、削減不可能により、適正な管理をする。		
汚泥濃縮車による浄化槽清掃の推進	件数率 96%以上		

●活動計画

環境経営目標	取組内容	責任者	チェック方法及び頻度
二酸化炭素排出量の削減	①電力使用の削減 ・不要照明の消灯 ・照明器具の改善 ・OA機器・家電製品の待機電力の削減 ・冷暖房の温度管理と機器清掃 ・給水管の電熱ヒーター線の電源確認(12月～3月)	小熊 一良	・役割分担責任者が毎日チェックする
	②エコ運転の実施 ・エコ運転の教育研修 ・アイドリング時間の削減 ・急発進、急加速はしない ・経済速度の遵守 ・月末最終日の付空圧の確認		・役割分担責任者が毎日チェックし気がついた都度指導する ・教育研修会の都度に確認する
一般廃棄物排出量の削減	①廃棄物分別の徹底 ・分別の徹底 ・廃棄物置場の整理 ②紙使用の削減 ・コピー数量の削減 ・OA紙の資源化 ③金属類の有価物化	蓬田 孝一	・役割分担責任者が随時確認する
水使用量の削減	①洗濯時の節水 ②水の強さを調節 ③こまめに水を止める	黒須 達也	・役割分担責任者が毎日チェックし指導する
地域・社会貢献活動	①地域清掃活動への参加 ②全社員が家庭で、節電・節水・ゴミ分別を実施する ③汚泥濃縮車による浄化槽清掃の推進	黒須 達也	・役割分担責任者が4回/年確認する
化学物質の削減	①使用量の管理 ②保管場所の施設管理を実施する	蓬田 孝一	・役割分担責任者が毎日確認する

■二酸化炭素排出量

猛暑や厳寒の為冷暖房機器使用は多かったものの省エネタイプのアコンやLED照明、燃費の良い車両の導入が影響してか、削減傾向になっているが人員が二人増えたことにより、主に車両の稼働は増えるかと思われませんが、室内温度管理やエコ運転等の実施を今後も十分心がけるものとして、2019年度比4%削減目標と設定しました。

■一般廃棄物排出量

毎年、保管年数の経過した書類や業務用品の廃棄量により増減しますが、ゴミの分別の徹底、コピー数量の削減及びOA紙の資源化には十分努めたいと思います。しかし、削減目標値設定は限界になりつつあることも踏まえ、昨年度同様、監視項目といたします。

■総排水量

暖冬の為、水道管凍結防止の措置などは必要なかったことや社内清掃、凝集剤溶解、また貯水槽清掃などでの使用はあったものの、十分節水を心掛けていたためか、削減になりました。

気候の影響が大きいこともあり、削減目標値の設定には限界があると考え、昨年度同様、監視項目といたします。

■地域社会貢献活動

「4回以上／年」の地域社会貢献活動（ふくしまきれいにし隊）を目標とします。

社内においても、週末の終礼時に環境方針を唱和し、一般教育研修等では全社員家庭での節電、節水、ゴミの分別の実施の指導をしていきます。

■汚泥濃縮車による浄化槽清掃の推進

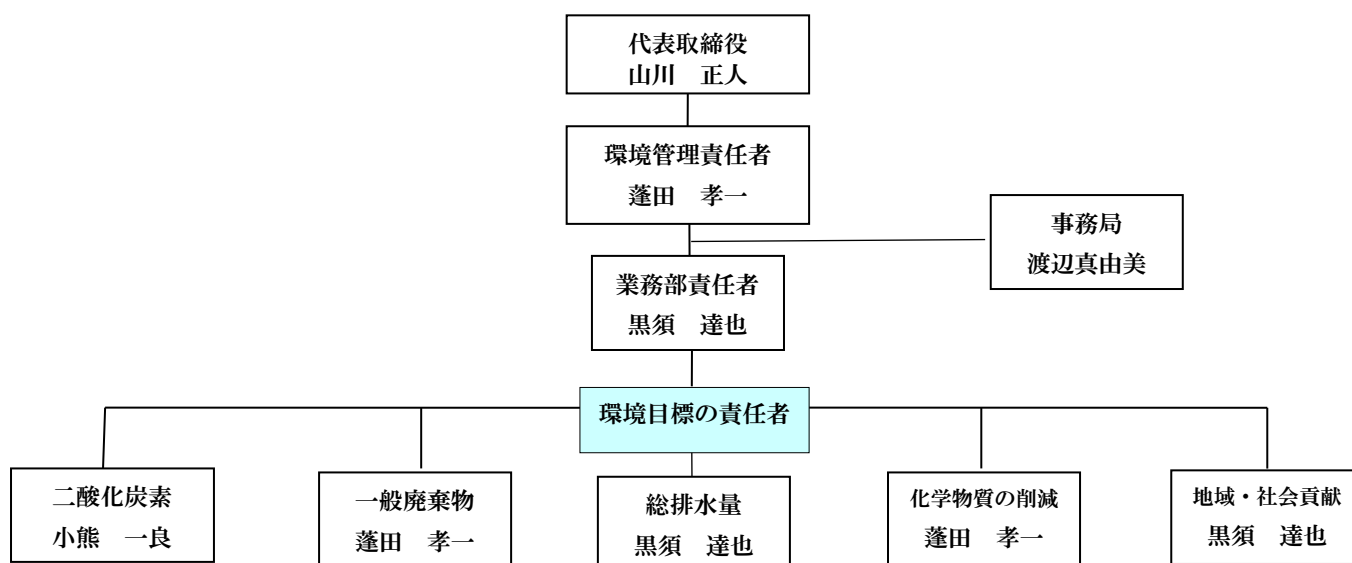
浄化槽から下水道への切り替え件数の増加や、浄化槽の取壊しの清掃があるものの、件数率96%以上を目標とし、お客様の水使用量の軽減、並びに水環境及び水資源を守るため活動して参ります。

■化学物質の管理

化学物質の管理において、当社の使用する薬品に関しMSDSを確認したところ、P R T R制度対象物質は該当が無いため、現状どおり適正な保管場所の管理のみ継続実施し、同時に使用量も把握する事によって汚泥濃縮車による浄化槽清掃の増減も確認したいと思います。

■エコアクション21組織図

当社では、2006年2月に代表取締役を最高責任者とするエコアクション21組織を編成し、環境に関する取り組みを全社的に推進する為の体制を整えています。環境目標毎に責任者を配置し、環境目標及び環境活動計画を全社員に周知徹底を図っています。



■環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	法令等の遵守すべき内容
廃棄物処理法	事業者の責務（廃棄物の適正な処理） 一般廃棄物処理業（し尿）の許可、変更の許可等
浄化槽法	浄化槽の定期的な保守点検と清掃の実施 浄化槽の指定検査機関による法定検査の受検 浄化槽保守点検の技術上の基準の遵守 浄化槽清掃の技術上の基準の遵守 浄化槽清掃業の許可、変更届出 帳簿の備え付け、記録の保存 浄化槽保守点検業の登録 浄化槽管理士に対する研修の機会の確保
家電リサイクル法	対象機器の引き渡しと料金の支払の責務
自動車リサイクル法	自動車所有者の引取業者への引渡義務
フロン排出抑制法	フロンが充填されている業務用エアコンの機器及びフロン類の適切な管理の義務
資源有効利用促進法	使用済みパソコンの回収・リサイクル
環境基本法	環境負荷の低減

環境関連法の違反はありません。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去 17 年間ありません。

更に、自社で遵守状況をチェックした結果、問題はありません。

■代表者による全体の評価と見直し

1.環境経営方針について

特に訂正や追加はありません。

2.環境経営目標について

今年度より一般廃棄物排出量及び総排水量を前年度比監視項目としましたが、有効に推移していると思われまます。

3.活動内容について

業務多忙の中でも、例年数件発生していた緊急事態等が今年度は発生しなかったのは特出事項だと思います。引き続き慎重な作業をお願いします。

4.環境経営システムの有効機能性について

全社員の皆さんに浸透して運用され有効に機能していると思っています。

5. その他指示が必要な事項

新入社員の皆さんへの教育を怠らない様をお願いします。

ちょっとした業務内容や環境の変化で目標達成のするか否かが変動しがちな当社は、今年度より一般廃棄物排出量、総排水量を前年度比監視項目といたしましたが、特に問題なく推移しました。今後は欠員となっていた社員も補強され、業務も平常化し作業車の使用も増えると思われますので、軽油の使用量の増加により二酸化炭素排出量に影響があると思われますが、それが本来の当社の姿となると思います。